

「頭の中」は中国語で何という？

寺澤知美

1. はじめに

「頭の中」という表現には、「頭の中の腫瘍」のように「頭」という身体部位の内側の具体的な場所を指す場合と、「頭の中の記憶」のように抽象的な場所を指す場合とがあるが、これらの表現を中国語に訳した場合にはどのような表現が用いられるのだろうか。現代中国語の単純方位詞のうち、「中」の意味を表すものには“里”、“中”、“内”の三つがあり、「頭、頭脳」の意味を表すものについても“头”、“脑袋”、“脑子”、“头脑”など複数の語が存在する。これらの方位詞、および名詞はどのように使い分けられるのだろうか。本稿では、「頭、頭脳」を表す名詞と方位詞“里、中、内”との共起関係について、それぞれの名詞の表す意味内容の違い、および文体的特徴による影響などを通して考察を試みる。

2. 「頭、頭脳」の中国語訳

『広辞苑』(第六版)の「頭」の項目には、「①動物の、脳(や目・口・鼻・耳)がある部分」、「②人の頭と関係ある次のようなもの。①脳の働き。…」などを始めとした複数の意味が記述されている。ここから少なくとも、日本語の「頭」は「身体部位としての頭」と「脳の働き(頭脳)」の二つの意味を表すことが可能であるといえる。

これに対して、中国語の“头”については、《現代汉语词典》(第五版)に“①人身最上部或动物最前部长着口、鼻、眼等器官的部分。”[人の身体の上上部或いは動物の最前部の口、鼻、目等の器官がある部分。]との記述があるように、「身体部位としての頭」を表すことは可能であるが、「脳の働き」に関する記述はみられない。一方、口語でよく用いられるとされる“脑袋”については、“①头”、“②脑筋”[頭脳]との意味記述があり、日本語の「頭」と同様に「身体部位としての頭」と「脳の働き(頭脳)」の両方を表すことができる。したがって、“拍头”、“拍脑袋”[頭をたたく]のように、身体部位としての頭を指す場合には“头”、“脑袋”のいずれも用いることができるが、「脳の働き」を指す場合には“脑袋不好”[頭が悪い]のように“脑袋”が用いられ、“头”は用いられない。

一方、「頭が悪い」の意味を表す場合には、“脑袋”だけでなく、“脑子”もよく用いられるが、“脑子”についても「身体部位(脳)」と「脳の働き」の両方の意味を表すことが可能である。また、“腦”についても「身体部位(脳)」と「脳の働き」の両方の意味を表すのに用いられるが、“腦”は単独では用いられにくく、“大腦”、“脳筋”のように複合語の一部として用いられるか、或いは“腦中一片空白”[頭の中が空っぽだ]のように後ろに方位詞を伴って用いられることが多い。

「脳の働き」を表す名詞としては、この他にも“脳筋”、“头脑”などが挙げられるが、これらの名詞は基本的には「脳の働き」のみを表し、具体的な身体部位は表さない<sup>1</sup>。また、同じく具体的な身体部位を表さない名詞として“脑海”も挙げられるが、“脑海”が表すのは「脳の働き」ではなく、「思考や記憶に関わる場所」である。つまり、“脑海”は「頭が悪い」のような「脳の働き」について言及する場合には用いられないが（“\*脑海不好”），“印在脑海里”[脳裏に焼き付ける]のように「記憶などをとどめておく場所」を指す場合など、「思考や記憶」に関わる抽象的な場所を表すのに用いられる。なお、「抽象的な場所」としての「頭、脳」を指すことができるものには、“脑海”のほかにも“腦子”、“腦”、“脑袋”などが挙げられる<sup>2</sup>。

「頭、头脑」を指す名詞の表す意味内容は以下のようにまとめられる。

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| (a) 具体的な身体部位としての頭    | …頭、脑袋          |
| (b) 具体的な身体部位としての脳    | …脳、腦子          |
| (c) 抽象的な場所（思考や記憶の場所） | …脑海、腦子、腦、脑袋    |
| (d) 脳の働き             | …脑袋、腦子、腦、脳筋、头脑 |

### 3. 文体的特徴が方位詞選択に与える影響

《現代汉语八百词》などにおいて指摘されているように、“里、中、内”が名詞と共起する際の特徴の一つとして、“里”が口語的な場面において多用されるのに対し、“中、内”は書面語において多く用いられる傾向があることが挙げられる。また、“内”は“中”よりもさらに書面語的色彩が強くなるとの指摘もある（西楨 2005 : 192）。方位詞の持つこのような特徴は、前置される要素にどのような影響を与えるのであろうか。

結論から述べると、前置される名詞自体の持つ文体的特徴<sup>3</sup>が特に顕著な場合にのみ、方

1 “脳筋”は基本的に「脳の働き」のみを表すが、“头脑”の使用についてはインフォーマントによって個人差がみられ、「脳の働き」以外の意味として用いられるケースもある。

2 “头脑”の使用例も皆無ではないが、インフォーマントによる個人差が大きいためここでは提示しないこととする。また、“頭”についても全く使用例が存在しないというわけではない。このようなばらつきが見られる原因の一つとして、方言による影響が考えられる。福州語話者のインフォーマントによれば、福州語では共通語に比べて“頭”の使用範囲が広く、たとえば「ちゃんと覚えなさい」というような意味を表す際にも、“记头”[kei t'au]のように“頭”が用いられるそうである。

3 『岩波中国語辞典』では、書面語的か口語的かというニュアンスの違いについて、「硬度」の強弱という基準によって11のランクに分けられている。身体部位名詞については、ランクの真ん中に該当する「きわめて普通なことば」に相当するものがほとんどであるが、“口”と“眼”については、その一つ上のランク（硬度が強い）である「ラジオ・テレビ・講演などで話されることば」として位置付けられている。また、“目”については上から二つ目の「古典のなかのことばではあるが、耳で聞くことばの中に混用されているもの」となっている。ただし、『岩波中国語辞典』においても言及があるように、

位詞“里、中、内”の選択に一定の影響が与えられる。

- (1) 从小被宠爱、娇惯的子女，常形成目中无人的以自我为中心的扭曲性格，父母后悔莫及而又无可奈何。 (《人民日报》1993)

[幼い頃から可愛がられ、甘やかされた子どもは、よく「眼中人なし」といった自己中心的な歪んだ性格を形成する。両親は「後悔先に立たず」であり、如何ともし難い。]

- (2) 平日说起闲话来，还常常提起“胖二婶”，不过她的形象在他们的小脑袋瓜儿里已经逐渐模糊。 (老舍《四世同堂》)

[ふだんの会話では、“胖二婶”のことが話題にのぼることもしばしばあったが、彼女のイメージは彼らの小さな頭の中でしだいに薄れていた。]

書面語的色彩の強い“目”は、例(1)のように“中”と共起するのが一般的であり<sup>4</sup>、“里”に置き換えることはできない。また、書面語で用いられるとされる“内”については、“目”との共起が可能であるように思われるが、実際には“目内”の使用例はほとんどみられない。これに対して、口語的色彩の強い“脑袋瓜儿”のような名詞については、例(2)のように“里”と共起しやすく、“中、内”を用いると違和感が生じる。

以上のように、前置される名詞自体の持つ文体的特徴は、方位詞の選択に一定の影響を与え得るといえる。しかし、名詞自体の持つ文体的特徴が特に顕著でない場合については、方位詞選択の決定的な要素とはならない。したがって、たとえば“脑袋”のように口語的色彩を帯びるといようなレベルの語については、“里”だけでなく、“中”との共起も可能となる。

- (3) 他俯下身去察看，发现血是从脑袋里流出来的，流在地上像一朵花似地在慢吞吞开放着。 (余华《现实一种》)

[彼が身をかがめて観察すると、血は頭から流れ出ており、まるで一輪の花がゆっくりと開いていくように広がっていった。]

- (4) 后来我就在那里发呆，那时候我脑袋里一片空白，一直到背着书包准备上学的刘小青走过来时，…… (余华《在细雨中呼喊》)

[それから私はそこでぼんやりとしていた。そのとき私の頭の中は真っ白で、か

---

このような分類はあくまで基準のひとつにすぎない。本稿では、名詞自体の持つ文体的特徴について、『岩波中国語辞典』の分類、インフォーマントによる語感、実際の使用状況などから総合的に判断する。

<sup>4</sup> ただし、“目中”の使用例は“目中无人”のような慣用的表現、およびそこから派生した表現がほとんどである。

在我国，所谓“黑道”大多由一些社会闲杂人员构成，目中无法律，头脑中也无“道”可循，他们眼中，只有钱财。 <人民网>

[わが国における、いわゆる「やくざの世界」は、その多くが社会で定職をもたない人たちによって構成され、眼中に法律なしであり、頭の中に従うべき「道」もない。彼らの眼中にあるのは、お金だけである。]

ばんを背負って登校する劉小青がやってくるまで]

(5) 经过数小时的手术后，医生最终成功将铁棍从他的脑袋中取出。 <人民网>

[数時間の手術を経て、医師はついに鉄の棒を彼の頭の中から取り出すことに成功した。]

(6) ……，一旦离开电脑，脑袋中空空如也，连‘九九表’都不会背，那就糟糕了。

(《人民日报》1995)

[ひとたびコンピュータを離れると、頭の中は全くの空っぽで、「九九」さえも暗誦することができない。それではまずいことになる。]

上の例から明らかなように、“里”、“中”はいずれも「身体部位(頭)」を指す場合(例(3)、(5))と「抽象的な場所(思考や記憶の場所)」を指す場合(例(4)、(6))の両方のケースに用いることが可能である。

一方、“内”については、前置する語の文体的特徴に関わらず、“里、中”と比べて全体的に使用頻度が低くなる傾向がみられる。ただし、次の例のように、医療関係の用語については例外的に使用頻度が高くなる。

(7) ……，这些人多数有高血压病史，发病时血压往往显著升高，同时随着脑内出血部位的的不同，症状还会有差异。 (《人民日报》1995)

[これらの人の多くが高血圧の病歴を持っており、発病時にはしばしば血圧が著しく上昇する。また脳内の出血部分の違いにより、症状に差異も生じる。]

以上のようなことから、以下では「頭、頭脳」を表す名詞と方位詞“里”、“中”との共起状況を中心に考察していく。

#### 4. 映画『私の頭の中の消しゴム』の中国語タイトル<sup>5</sup>

以下の【表1】は、韓国映画《내 머리 속의 지우개 (A Moment to Remember)》の中国語タイトルをインターネットの検索サイト<百度>で検索した結果である。この映画の日本語タイトルは『私の頭の中の消しゴム』であるが、中国語タイトルについては、韓国語タイトル《내 머리 속의 지우개》[私の頭の中の消しゴム]を訳した複数の候補が存在する。

<sup>5</sup> なお、本映画のDVDは『我脑海中的橡皮擦』(中国际音录像出版社(大陸))、『腦海中的橡皮擦』(采昌華亞國際多媒體股份有限公司(台湾))などのタイトルで出版されている。また、香港では『抱擁這分鐘』(asia video)というタイトルが用いられている。

【表 1】

	<百度>におけるヒット件数
① 我 <u>脑里</u> 的橡皮擦	158
② 我 <u>脑中</u> 的橡皮擦	622,000
③ 我 <u>脑海里</u> 的橡皮擦	25,300
④ 我 <u>脑海</u> 中的橡皮擦	385,000
⑤ 我 <u>头脑</u> 里的橡皮擦	26
⑥ 我 <u>头脑</u> 中的橡皮擦	2,100
⑦ 我 <u>脑袋</u> 里的橡皮擦	1,250
⑧ 我 <u>脑袋</u> 中的橡皮擦	1,350
⑨ 我 <u>脑子里</u> 的橡皮擦	905
⑩ 我 <u>脑子</u> 中的橡皮擦	23

(2011年3月9日現在)

『私の頭の中の消しゴム』という映画タイトルは、記憶がどんどん失われていってしまうという主人公の病気（若年性アルツハイマー病）を比喩的に表現したものである。つまり、身体部位としての頭の中に本当に消しゴムが入っているわけではないため、「抽象的な場所」を表しにくい“頭”は用いることができない。また、記憶を消してしまう「消しゴム」の存在する「場所」を表すことから、“脳筋”のように「脳の働き」しか表さないものについても使用ができない。一方、“頭”、“脳筋”以外の「頭、頭脳」を表す名詞の使用については、上の表から明らかなように、②“我脑中的橡皮擦”と④“我脑海中的橡皮擦”の二種類のタイトルのヒット件数が突出しており、いずれのケースにも方位詞“中”が用いられているという共通点がみられる。これは、映画のタイトルということで書面語的なニュアンスを持つ“中”が選択されやすくなるためであると考えられるが、ここで興味深いのは、両者における“里”との共起状況である。①の“脳”の場合にはほとんど“里”との共起例がみられないのに対して、③の“脑海”の場合には“里”との共起例も一定数存在する。両者にこのような違いが生じるのには、それぞれの名詞における“里”との共起のしやすさが影響していると推測される。つまり、“脑海”は“脳”よりも“里”と共起しやすい傾向があることから、“里”との一定数の共起例が存在するものと考えられる。また、全体の件数としては少ないが、“头脑”、“脑袋”、“脑子”のケースについては、“头脑”は“中”との共起が優勢、“脑袋”は“里”と“中”の共起例がほぼ同数、“脑子”は“里”との共起例が優勢という結果となっている。これらについても、もともと“中”と共起しやすい名詞については、そのまま“中”

が用いられ、“里”との共起例は少なくなるが、“里”、“中”の両方と共起しやすいもの、あるいは特に“里”と共起しやすいものについては、“里”との共起例が増加するものと考えられる。つまり、“腦子”、“脑袋”は他の名詞に比べて、より“里”と共起しやすい傾向があるといえよう。

## 5. おわりに

以上の考察から、日本語の「頭の中」を中国語に訳す場合には次のような使い分けがみられることが明らかとなった。すなわち、「頭の中の記憶」や「頭の中の消しゴム」のように抽象的な場所を指す場合には、主に“腦”、“脑海”、“腦子”、“脑袋”などが用いられ、「頭の中の腫瘍」のように具体的な身体部位を指す場合には、主に“腦”、“腦子”、“脑袋”などが用いられることになる。なお、「頭の中の腫瘍」とは「腦」の腫瘍を指していることから、「頭」を指す“脑袋”だけでなく、「腦」を指す“腦”や“腦子”についても使用が可能となる。また、この場合、具体的な身体部位を表さない“脑海”や“脳筋”を用いることができないことはいままでのまもないが、身体部位としての「頭」を表すことのできる“头”についても用いられにくい傾向がみられる。“头”はなぜ「頭の中」を表しにくいのだろうか。実は、“头”の指す身体部位とは「頭」の表面（外側）を指すことが多く、「頭」の内側を指す場合には、「腦」を表す“腦”、“腦子”が用いられるか、或いは“脑袋”が用いられることが多い。日本語の「頭」は、「頭」の外側はもちろん、「頭」の内側にある「腦」、さらには「腦の働き」までも表すことが可能である。中国語の“脑袋”についても同様の内容を表すことが可能であるが、“头”については、「頭」の外側については表すことができるが、それ以外の内容については表すことが難しい。つまり、“头”は“脑袋”とは異なり、「容器—中身」のメトニミーが適用されないと考えられる。

なお、これらの名詞に後置される方位詞については、基本的に“里”、“中”のいずれも用いることが可能であるが、“腦子”や“脑袋”については他の名詞に比べて“里”との共起が優勢となる傾向がみられる。

## <主要参考文献>

- 皆島博 2006. 「日英語の身体部位語彙：「アタマ」と“head”」, 『福井大学教育地域科学部 紀要』第I部 人文科学（外国語・外国文学編）第62号, 49-62。
- 上野恵司 2010. 「第32話“顔”は「顔にあらず」, 『ことばの散歩道 日本語と中国語 87話』, 白帝社, 74-75頁。
- 郭振华 1990. 〈方位词“内”和“里”〉, 《第三届国际汉语教学讨论会论文选》, 北京语言学院出版社, 453-459頁。

- 李榮主编 1998. 《福州方言詞典》，江蘇教育出版社。
- 吕叔湘主编 1980. 《现代汉语八百词（增订本）》，商务印书馆（1999）。
- 罗日新 1987. 〈“里、中、内” 辨异〉，《汉语学习》第 4 期，13—16 页。
- 西槿延子 2005. 〈“里” “中” “内” 的比较研究〉，『中国語學研究「開篇」』 vol.24, 184—193 页。
- 邢福义 1996. 〈方位结构“X 里”和“X 中”〉，《世界汉语教学》第 4 期，4—15 页。
- 邢福义等 2004. 《汉语句法机制验察》，生活·读书·新知三联书店。